

Vol.1 2022・3

2021 年度

しんあい教育研究ケアセンター活動報告



Osaka Shin-Ai Gakuin

巻 頭 言

しんあい教育研究ケアセンター長

岩 熊 美 奈 子

私ども、学校法人大阪信愛女学院の設立母体である幼きイエズス修道会はフランスの田舎町ショフアイユで誕生しました。そのフランスにおいても、派遣された日本においても常に地域社会の要請に応え、1887（明治10）年、来日した4名のシスターは、育てられずに連れてこられた子ども達の世話に明け暮れるなど、社会の中で生きてきました。大阪信愛女学院も1884（明治17）年の創立から今まで、幾多の困難（その中には今のコロナウイルスのような伝染病もあったと聞きます）や大戦を乗り越え、地域の皆様に育てられ地域と共に歴史を刻んでまいりました。

地域に生かされ、地域なくしては存在価値がないといっても過言ではない学院にとって、地域の方々の健康面、教育面において、少しでもお手伝いできればと、大学開学に先立ち令和3年度より「しんあい教育研究ケアセンター」を立ち上げました。その一端である「まちの保健室」の活動に当たっても「イオンモール」や「菫憩いの広場」などの、会場の提供のご協力を得ながら展開しています。コロナ禍でもあり、まだまだ認知度が浸透していないため、活動も十分とは申せませんが、地域住民の皆様の心身の健康、子育て、介護などの様々な不安や悩みに対して、少しでもお手伝い出来たら幸いに思います。また、医療福祉組織や団体と連携しながら、少しでも地域社会の皆様の平和と幸せ、発展に参画貢献できたらと思っています。更には、学生のボランティアやリカレント教育、研究の場、成長の場としても構築してまいりたいと思います。

お互いに助け、助けられながら共に成長する社会に温もりと笑顔があふれ、喜びいっぱい、幸せいっぱいの花が未来にわたって咲き続けていくことを念じてやみません。

コロナ禍の不安と心配で自粛生活を余儀なくされる中、できうる限りの活動を展開して下さったすべての皆さまのご尽力に感謝申し上げます。

来年度もより良い方向に向かって精進してまいりますのでどうぞよろしく願いいたします。

目 次

「広報・渉外」報告	足高 耆夫・阪上 由美	1
「教育相談(のぼら)」実施報告	智原 正行・芝 誠貴	3
「まちの保健室」活動報告	「まちの保健室」運営メンバー 阪上 由美	4
	足高 耆夫・松井 幸子・吉田 智美・竹見 八代子	
	西山 史江・郷司 律子・有田 弥棋子・高橋 篤信	
	磯辺 美幸・中森 裕子・岩澤 和子	

「広報・渉外」報告

足高壺夫、阪上由美

1. 「広報・渉外」活動概要

しんあい教育研究ケアセンター（以下、ケアセンター）は2021年4月に開所しました。開所するにあたり、ケアセンターの活動の趣旨や内容の周知、また、地域ニーズや課題の把握のために、「広報・渉外」を行いました（表1参照）。

2. ロゴマーク作製

ケアセンターを地域の関係機関、住民の方々に広く知ってもらい、親しみを感じていただくために、ロゴマークを作製しました。

作製にあたっては、大阪信愛学院各校において、ケアセンターの存在および活動内容を理解いただくために、小学校・中学校・高等学校・短期大学の児童・生徒・学生に対して、ロゴマークの募集を行いました。総数78作品の応募があり、高等学校1年生の木村七海さんの作品をケアセンターのロゴマークとして採用いたしました（図1）。このロゴマークを取り入れた、ケアセンターの活動内容をまとめた三つ折りリーフレットやクリアファイルも作製しました。



図1 ロゴマーク

3. 内覧会

2021年7月16日（金）、17日（土）に内覧会を実施しました。内覧会では、健康相談、教育相談 Q&A コーナー、ミニ講座を開催しました。ミニ講座は教員の専門性を活かした「輝く中高年女性になるために～婦人科医からのアドバイス～」、「“痛み”とれてますか？～生活・人生の質を良くするために～」、「ストレスは悪くない～みんなも感じる身近なストレス～」、「赤ちゃんからお年寄りまで楽しく手あそび！」の4つの講座を行いました。また、ロゴマーク募集結果の発表と表彰式（図2）も行いました。2日間で延べ60名近くの学院関係者や地域の関係機関・団体、住民の

方々に来館いただきました。来館いただいた方々には、「ケアセンターで受けた相談」、「ケアセンターで開催する関心のある講座・イベント」、ケアセンターへの要望等などをお尋ねし、ケアセンターへの期待が大きいと実感いたしました（アンケートの結果は、表2・3参照）。



図2 表彰式（最優秀賞・優秀賞・入賞）

4. 掲示板

大阪信愛学院正門右側にケアセンター用の掲示板を設置しました（図3）。これにより、ケアセンターの活動内容を広く周知できます。積極的に活動内容を広報していきます。



図3 しんあい教育研究ケアセンターの掲示板

5. 大阪信愛学院ホームページのブログ

ケアセンターの活動は、大阪信愛学院のホームページ内のブログで紹介させていただきました。2022年度からは、ケアセンターは大阪信愛学院大学附属となります。新たに作製した大阪信愛学院大学のホームページ内にケアセンターの活動を情報発信をしていく予定です。

表1. 主な活動一覧

		学内	公的セクター	共的セクター	私的セクター
2020年	10月			城東区董・鯉江東地域包括支援センター	
	11月			城東区董地域活動協議会	
2021年	5月	ロゴマーク募集			
	6月	リーフレット作製	大阪市城東区保健福祉センター 大阪市鶴見区保健福祉センター	城東区自立支援協議会 大阪市城東区社会福祉協議会	
	7月	内覧会		城東区董地域活動協議会 大阪府済生会野江病院 社会福祉法人 大阪福祉事業団 すみれ病院 大阪市鶴見区社会福祉協議会	
	8月			NPO法人 緑・ふれあいの家 (鶴見区緑地域活動協議会) 大阪府看護協会	イオン鶴見緑地店
	10月		大阪市鶴見区保健福祉センター		
	11月		枚方市役所(総合政策部 企画政策室)		
2022年	12月		門真市役所(市民文化部 地域政策課)		
	2月	掲示版設置			
	3月		守口市役所(企画財政部 企画課)		

表2. 今後、ケアセンターで受けた相談(各年代別)

	健康相談		介護相談		認知症相談		病気・症状の相談		育児相談		その他	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
10代	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	100.0	0	0.0	0	0.0
20代	1	33.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	33.3	0	0.0
30代	3	100.0	1	33.3	0	0.0	0	0.0	3	100.0	0	0.0
40代	7	58.3	2	16.7	3	25.0	3	25.0	5	41.7	1	8.3
50代	4	44.4	4	44.4	4	44.4	4	44.4	4	44.4	1	11.1
60代	3	50.0	1	16.7	2	33.3	2	33.3	4	44.4	1	16.7
70代	1	33.3	0	0.0	2	66.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0

表3. 今後、ケアセンターで開催する関心のある講座・イベント(各年代別)

	介護教室		親子教室		母親学級		交流スペース		病気・症状の講座		健康講座		認知症講座		子供の発達講座		子供の教育講座		その他	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
10代	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	100.0	1	100.0	0	0.0
20代	0	0.0	2	66.7	1	33.3	2	66.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	66.7	1	33.3	0	0.0
30代	0	0.0	2	66.7	2	66.7	1	33.3	1	33.3	0	0.0	0	0.0	3	100.0	1	33.3	0	0.0
40代	3	25.0	4	33.3	1	8.3	5	41.7	4	25.0	7	58.3	2	16.7	6	50.0	7	58.3	0	0.0
50代	4	44.4	1	11.1	0	0.0	3	33.3	5	55.6	5	55.6	2	22.2	3	33.3	4	44.4	0	0.0
60代	1	16.7	0	0.0	0	0.0	3	50.0	1	16.7	0	0.0	2	33.3	3	50.0	2	33.3	0	0.0
70代	1	33.3	0	0.0	0	0.0	2	66.7	0	0.0	0	0.0	1	33.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0

「教育相談(のぼら)」実施報告

智原正行、芝誠貴

1. 事業目的

幼児・児童に関する学術研究及び実践的研究を推進するとともに、その成果を地域社会に還元することを目的とし、「子育てに迷っている」「ことばの育ちが気になる」「幼稚園や学校に行きたがらない」等、地域の保護者の方々の「子育て、子育て」の不安や悩みに耳を傾け、子どもたちの健やかな成長・発達を共に願い、共に考える教育相談を実施した。

研鑽を積む所存である。その1つとして、特に電話相談における対応のスキル向上が挙げられる。

2. 具体的内容

- ・週1回(木曜日)、午前・午後に来談及び電話による相談を実施(事前予約制 無料)
- ・対象は、幼児・児童・生徒(中学生)を持つ保護者、ご家族
- ・家庭や学校における子育て・子育て・教育などに対応する。

3. 実施内容(概要)

大阪信愛学院短期大学児童教育研究所の教育相談部門「のぼら」を継続し、ケアセンター内に移設。

設備工事等とコロナ禍にあつて、年度当初からの相談室の利用に至らず、6月より緊急性のある来談相談は城東学舎空研究室で行い、その他は電話相談にて実施した。

- ・ケース① 子育ての在り方に関する家族からの相談(前年からの継続相談)・・・10件
 - ・ケース② 障害のある幼児の発達と子育て相談(数年来の継続相談)・・・1件
 - ・ケース③ 障害のある幼児の発達上の相談・・・1件
 - ・ケース④ 障害のある幼児の就学先の相談・・・1件
 - ・ケース⑤ 不登校傾向の小学生の母子相談・・・2件
- 以上5ケース、15件を実施した。

その他

- ・しんあい教育ケアセンター内覧会(7/16)
幼児保護者・・・2件

4. 今後の課題

今年度は、新型コロナウイルス感染防止のために対面での相談を控え、電話での相談件数が増加した一年であった。これまでの継続相談への対応とともに、コロナ禍における新たな相談内容にも対応できるよう

「まちの保健室」活動報告

「まちの保健室」運営メンバー

阪上由美、足高亮夫、松井幸子、吉田智美、竹見八代子、西山史江
郷司律子、有田弥棋子、高橋篤信、磯辺美幸、中森裕子、岩澤和子

1. はじめに

日本看護協会は、2001年度より看護職が地域で展開する疾病予防や健康増進のための相談事業として「まちの保健室」を展開している。本学院も「しんあい教育研究ケアセンター」（以下、本センター）の事業の一つとして、2021年10月から「まちの保健室」を開設し、地域への貢献および地域に目を向けることができる学生を育成するための場となることを期待し、スタートした。

開設1年目は、城東区と連携協力に関する協定を締結し、鶴見区・大阪府看護協会から後援をいただき、施設型と出張型において活動を行った。施設型は本センター、出張型は鶴見区にあるイオンモール鶴見緑地と城東区葦地域活動協議会の「すみれいこいの広場」において開催した。これら1年間の「まちの保健室」の活動について報告する。

2. 目的

本センターにおける「まちの保健室」の事業目的は以下の通りである。

- 1) 地域の全世代の住民の心身の健康、子育て、生活習慣病予防、介護等の様々な不安や悩みに対し気軽に話せる場を提供し、健康づくりをはじめとした健康管理・増進への貢献に寄与する。
- 2) 地域の医療・福祉・保健に関する組織・団体と連携し、地域のニーズに応じた健康関連のまちづくりに参画する。

3. 「まちの保健室」活動

1) 場所と日時

(1) 施設型「まちの保健室」

場所：しんあい教育研究ケアセンター

日時：2021年11月2日（火）2022年1月4日（火）、3月1日（火）の10時から12時



2) 出張型「まちの保健室」

場所：イオンモール鶴見緑地 2階ペルーナ前
日時：2021年10月5日（火）、12月7日（火）、
2022年2月1日（火）の10時から12時
場所：すみれいこいの広場

日時：2021年11月16日（火）、12月21日（火）、
2022年1月18日（火）の10時から12時



2) 活動実績

(1) 施設型「まちの保健室」

施設型の実施内容は、血圧測定・血管年齢測定・骨密度測定後の健康相談・育児相談である。3回実施し、来所者は、延べ58名であった。本センターはUR団地を含めた住宅街に隣接しており、高齢化率は25.2%であるが、若い世帯も増加傾向にある地域である(JMAP <https://jamp.jp/cities/detail/city/27118>)。「まちの保健室」来所者層は、60歳以上57%、60歳未満43%であった。

相談時間は、5～10分が半数であり、次に10～20分が23%と7割近くの方が5分以上、看護職による健康相談を受けていた。

2021年度は、本センターの周知を図ることを目標とした。スタート当初は、呼び込みにて来所していた方が多かったが、3月の実施では、リピーターの来所者も数名おり、少しずつではあるが本センターの認知に寄与できている。

2021年度 施設型実績

月日	来所者数	健康相談		子育て相談	測定のみ
		60歳以上	60歳未満		
11月2日	23	15	4	0	4
1月4日	19	10	9	0	0
3月1日	16	8	8	1	1

(2) 出張型「まちの保健室」

出張型の実施内容は、血圧測定・血管年齢測定後の健康相談・育児相談である。3回実施し、来所者は、延べ67名であった。イオンモール鶴見緑地は、鶴見区の中央近くにあり、鶴見区在住者、鶴見区の周辺にある住民が来館する。来館者層は、目視においても子育て世代の方が多い中、「まちの保健室」来所者層は、60歳以上の高齢者層が58%を占めていた。来所呼びかけをしても、子育て世代層は自分事ではないという感じで断られる傾向にあった。

相談時間は、5～10分が半数であり、次に5分以内が27%と8割近くの方が10分以内の健康相談時間であった。この結果は、商業施設の一角で行うオープンな環境も大きく影響していると考えられる。

2021年度 出張型実績

月日	来所者数	健康相談		子育て相談	測定のみ
		60歳以上	60歳未満		
10月5日	25	15	6	0	4
12月7日	24	12	12	0	0
2月1日	18	12	5	0	1

葦地域活動協議会からの依頼で、「すみれいこいの広場」の一角に「ちいきの保健室」ブースを設け、本センターの教員が血管年齢測定と健康相談を実施した。各回、20名近くの参加者が、健康相談を受けられた。

4. 今後の展望

施設型と出張型の特徴を活かしながら、2022年度も毎月第一火曜日に「まちの保健室」を実施する予定である。しかし、平日午前という開催日時では、60歳以上の高齢者層がターゲットとならざるを得ないため、子育て世代や平日仕事をしている働き世代の住民への健康管理・増進への取り組みや事業も検討が必要である。

来年度は、大阪信愛学院大学が開学し、新入生も入学してくる。学生がボランティアとして「まちの保健室」に参加できるシステム作りとリピーター来所者に対する継続支援の方策も今後の課題である。

謝辞

ご来所くださった地域住民の皆様や連携協力に関する協定を締結している城東区の皆様、ご後援いただいた鶴見区・大阪府看護協会の皆様、葦地域活動協議会・緑地域活動協議会の皆様、関係機関の皆様、開催にあたる場所の提供をくださったイオンモール鶴見緑地の皆様、ご支援・ご協力くださった全ての皆様に深く感謝いたします。

